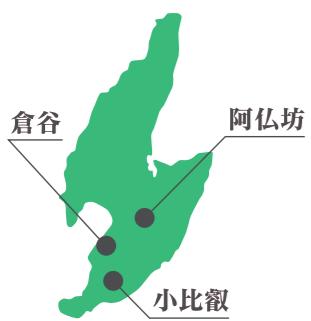
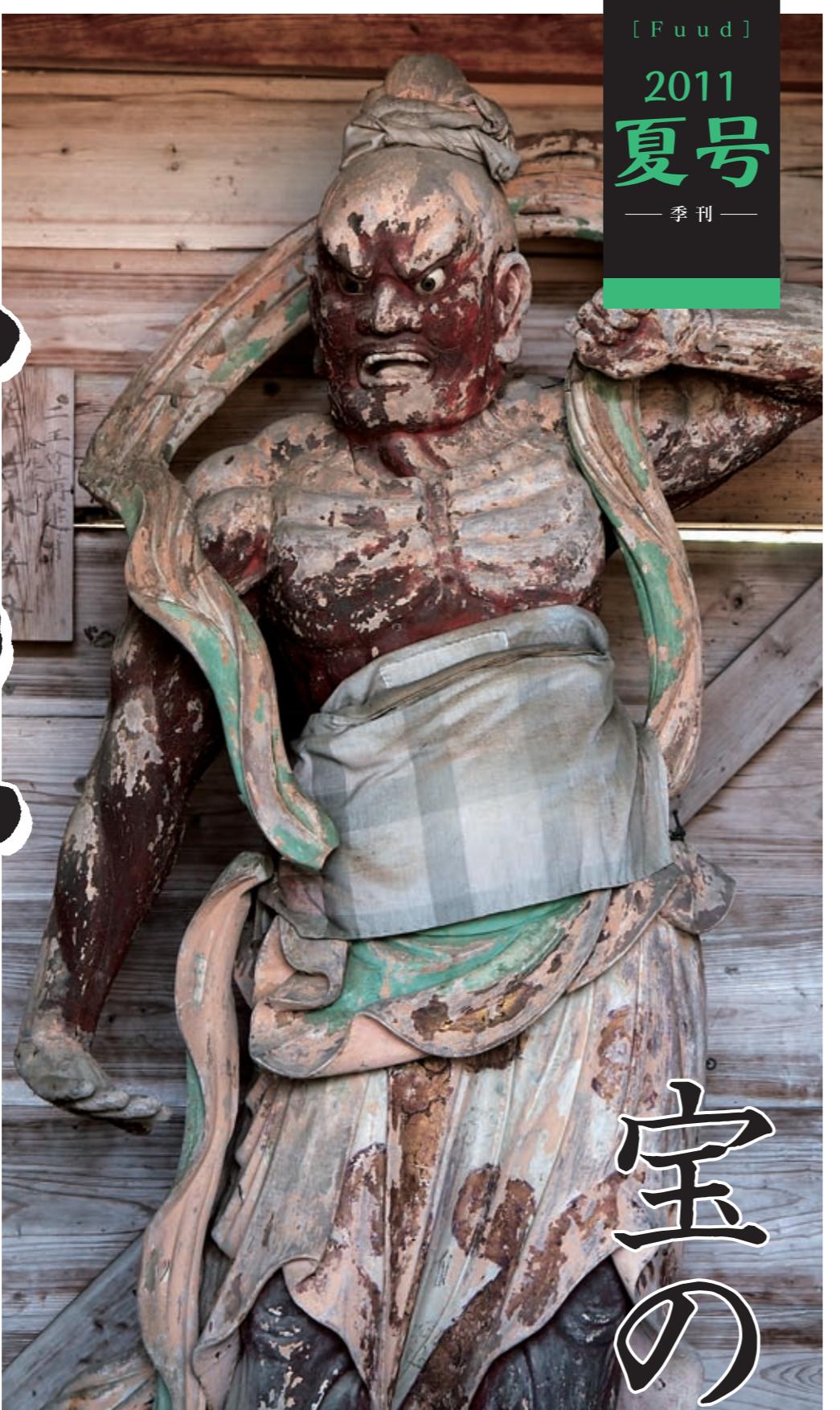


想い | つくる | 伝える



Take Free

ご自由にお持ちください



3世紀以上の間、寺の入口にある仁王門の奥から、憤怒の表情で悪鬼の侵入を防ぎ仏寺を守ってきた金剛力士。17世紀後期(阿仮房妙宣寺 阿仮坊)

宝の島

がんばろう ● ニッポン!

[Fuud]
2011
夏号
—季刊—

時代時代のメインストリート [新発田市《上赤谷》]

文・写真 / 榎本国男



ケットなど市街地並みの賑わいをみせていたという。
戦国時代には三川守裕宗の赤谷城の城下町、江戸時代には宿場町、近代では鉱山町としてそれぞれ三度も変貌した地域であり、また歴史的にもいくつかの古戦場の史跡を残している上赤谷集落である。

お邪魔しているとサイレンが鳴り響く。朝5時、昼11時半、夕方5時の一日3回《時》を知らせるサイレンだという。「昭和30年からですから、55年も続いている」と松原さん。

大正14年、赤谷線が開業した。新発田→東赤谷間の約19km。地方都市と山間部をつなぎ住民の生活の便に応えたが、車社会の到来とともに昭和59年に閉業。廃線後の赤谷線は、鉄路の記憶を潜めてサイクリングロードに整備され、サイクリングを楽しむ人たちで賑わっている。極彩色のユニホーム、ハデな帽子、バイクを見ればどれも競うように外車だ。皐月の風の中を疾走する若者の姿がある。時速60kmというから旧赤谷線の鈍行より速い。

会津街道は龍泉寺のT字路から右折すれば、綱木、三川、津川(現阿賀町)を経て会津にいたる。左折すると滝谷森林公园に向かう。途中『熊の出没に注意』『猿に餌をやらないでください』の看板が目立つ。

この街道を文化11(1814)年、江戸の戯作者・十返舎一九が新発田から赤谷へ、吉田松陰は嘉永5(1852)年赤谷を通り新発田へと足跡を残している。

ふうど 2011夏号 vol.13

企画編集 株式会社タカヨシ広報室
発行人 高橋春義
編集 沢川綾子
取材 榎本国男
写真 渡部佳則
デザイン 斎藤道司
題字 小林 翠

編集後記

巨樹や建築物は昔を記憶しています。あの日以来、百年千年の時を超えてきた「動じない」ものにいっそう愛着を感じます。若い頃、よく佐渡に行きました。いろんな史跡も訪ねたのですが、その背景を知らなかったものには、ただ通り過ぎただけだったようです。今回改めて佐渡を訪ね、ようやく佐渡の奥深さと広さを知るヒントを得ました。本土から佐渡を見るという現代の視点ではなく、日本海のなかの佐渡というふうに考えると、幸運にも時を超えてきた史跡がダイナミックに昔語りをしてくれるようです。明治9年までは、ひとつの国だった佐渡。海が育て海が守った佐渡。

ついこの6月に、世界農業遺産に登録されました。佐渡銀山遺跡群も世界遺産登録に一步ずつ近づいています。やっぱり佐渡は、宝の島です。その島で歴史的建造物を大切に守っている皆様に、心から敬意を表します。(澤川綾子)

発行所



まごころ印刷の
株式会社 タカヨシ

PRINT COMMUNICATION・企画・制作・印刷・シール・パッケージ・出版etc

■本社・工場 / 〒950-0141 新潟県新潟市江南区亀田工業団地1丁目3-21 TEL (025) 381-2000 FAX (025) 381-4800
■東京支社 / 〒110-0005 東京都台東区上野1丁目13-3 MYビル2F TEL (03) 3837-4488 FAX (03) 3837-4884
■仙台営業所 / 〒981-0952 宮城県仙台市青葉区中山5丁目7-32 TEL (022) 303-1225 FAX (022) 303-6830
■オフィシャルサイト / <http://www.takayoshi.co.jp> ■商品サイト / <http://www.tk-print.jp>

「ふうど」はここに置いてあります

【新潟市】NPO法人 Made in 越後(中央区)、上古町商店街(中央区)、砂丘館(中央区)、佐渡汽船ターミナル(中央区)、朱鷺メッセ(中央区)、新潟NPO協会(中央区)、新潟絵屋(中央区)、新潟県政記念館(中央区)、新潟県庁広報展示室(中央区)、新潟県立図書館(中央区)、新潟市市民活動支援センター(中央区)、新潟市生涯学習センター図書館(中央区)、新潟市商工会議所(中央区)、新潟市中央公民館(中央区)、亀田図書館(江南区)

【長岡市】長岡市立中央図書館

【東京都】表参道・新潟館 ネスバス(渋谷区)、日本橋・にいがた館NICOプラザ(中央区)

エコプレス
バイナダー

RICE INK
この印刷物は環境にやさしい
米ぬか油のUVインキで
印刷しています。



石段を登ると、古様な仁王門が迎えてくれる。茅葺屋根を支える肘木にベンガラの赤が新緑に映える。彫刻も精緻。左右に金剛力士が睨みをきかせていた。この寺最古の建物。17世紀後半(阿佛房妙宣寺 阿仏坊)



本堂に隣接する巨大な庫裡。茅葺屋根の大きな反りが6月の空を突く。悠久の時を感じさせる、おおらかな光景だった。大黒柱である赤松の角材は、佐渡隨一の大太さを誇る。19世紀後期(阿佛房妙宣寺 阿仏坊)

中世から戦国へ

開山から、およそ五十年がたち、雑太城主本間山城守から地所の明け渡しを命ぜられて移転。しかし戦国

そして二三七一(文永八)年、鎌倉幕府の勘気を蒙り日蓮が佐渡に流罪となる。遠藤ははじめ宗門の敵である日蓮を責めようとしたが、理の通った教示により帰依し終生熱心な法華信者になった。日蓮から弟子として認められた遠藤は阿佛房日得と名乗り、二人の居宅を改めて寺にして妙宣寺を開山した。二三七八(弘安元)年のことである。

五重塔建築に駆けた男たち

妙宣寺の五重塔はすっきりと美しい。相川の宮大工茂左衛門と金蔵の親子二代三十年の年月をかけて一八二五(文政八)年頃に完成した。日蓮と妙宣寺の開祖の強い絆を確実に後世に伝えるために、匠が気迫をこめた塔。開山から五百年以上を経て、寺の全容が整つたことになる。ご住職に話を伺った。

五重塔建築を発願したのは、三十一世だそうだ。しかし何の咎か、塔が完成したころ八丈島に流されてしまった。幕府の命に反し身命を賭してまで、何を貫きたかったのだろう。やはり正義感の強い日蓮の血脉である。最近、この塔の特殊な工法が建築工学の専門家に注目されていると言え。地震国である日本で何百年も倒れずにいる全国の五重塔。その中でも、比較的新しく小ぶりな妙宣寺の塔にどんな知恵があつたのか。現代科学が謎解きを始めている。



時を旅する

佐渡は中世がよく残っている。
民俗学者・宮本常一の口癖だつた。
ひとつの時代が残していくつた面影。
寺社建築を探りながら、
佐渡の昔から今を訪ねてみた。

想い情熱の系譜

佐渡はその昔、遠国という地理的条件から流人の島となつた。流人といつても時の権力争いに破れた貴人・政治家、思想があわない文化人が大半。こうした文化的な素養の高い人たちの来島は、佐渡に固有の歴史を歩ませ、島の文化を高めていった。

高名な流入をつなげた阿佛房

県内で唯一、五重塔が建つ真野の阿佛房妙宣寺は、佐渡に流された最も有名な二人の存在が大きいかわる。一二二二(承久三)年、承久の変に破れ配流された順徳上皇に供をしてきた北面の武士がいた。名を遠藤左衛門為盛。二十年間にわたる上皇の暮らしに仕え、崩御後も三十年余年の間、妻の千日尼とともに陵墓を守つた。

新潟県唯一の五重塔。寺の開祖である遠藤左衛門為盛(後の日得上人)とその妻千日尼の居宅があった場所に建つ。日光東照宮の塔を模した高さ21m。継目のない一本ものの心柱を用い、その柱が礎石に固定されず宙に浮いていることが専門家の調査で判明した。19世紀前半(阿佛房妙宣寺 阿仏坊)



隠れ里で 江戸の美に酔う

■大工が残した精緻な美

この崖の上にある智光坊の彫

刻が素晴らしい。江戸後期の美意識がここにある。山門の彫刻はノミの削り痕を残さないことを意識したのか、表面が滑らか。柱は全面に波が総彫され、上品。一方、境内の金比羅権現はダイナミック。建物を支える構造材の間を、天女・虎・麒麟・鳳凰・松・水草など精巧な彫刻が埋め尽くす。四隅にはたくさん龍が飛ぶ。足には玉を抱える。熟練を要する透かし彫りである。お堂は四面とも絵柄が違い、どれひとつとっても渾身の力が漲り、これでもかこれでもかと見る人に迫ってくる。もちろん下から見上げた時の効果も計算済み。見る角度によって絵の表情が異なる。

棟札には「一八三三(天保四)年八月、棟梁 村山村 高野甚右衛門 良春」とあり、伝説によれば高野が社殿を建築し、彫刻はその弟子の謙蔵の作という。こんな大作を彫りあげた瞬間、匠たちは何を思ったのだろう。智光坊は八〇八年(大同二)年の開山と伝えられる、真言宗の寺院である。

隠れ里のような場所で、こんな芸術的な彫刻と出会えるのは佐渡の豊かさであり、懐の深さである。



■戦国時代の習俗・大ワラジ

西三川ゴールドパークから、真野湾を眼下に見、北へ下ったところに倉谷の集落がある。気をつけないと、電柱に大きなワラジがぶらさがっている。藁で編み、大人の身丈ほどもある。集落に疫病や見知らぬ他国者が入れないよう、こんな大きなものを穿く荒神がいるぞ、と誇示する呪いである。戦国期に全国で見られた習俗が、今も倉谷に伝えられている。このあたりは雑木林が道路に迫り、緑陰がいつそう。今“を薄めていく。道端に立つ智光坊の看板から海の方へ、細い道をゆるゆる下りる。集落を過ぎ、さらに進むと小さな棚田があり、真野湾から吹きあげてくる風に早苗が身を揺らしていた。小鳥やカエルの声も心地いい。一般道からは窺いしれない、日本の原風景が広がっていた。



にいがたの心を旅する ふうじ

【情報】

阿佛房 妙宣寺

佐渡市阿佛坊29 TEL 0259-55-2061

智光坊

佐渡市大倉谷71 TEL 0259-58-2322

蓮華峰寺

佐渡市小比叡182 TEL 0259-86-2530

読者の声

まさにタイムリー

3月11日の大震災による原子力エネルギーに対する論議が沸騰している中、越後のエネルギーの歴史から将来のエネルギーを考えようという企画は、まさにタイムリーで多くのことを考えさせられました。

新潟市 50代 男性

新潟人として

環境やエネルギーに関しては、「まだ大丈夫だろう」と楽観視している部分がありました。新潟でもメガソーラーや風力発電に積極的に取り組んでいることを初めて知り、新潟人として恥ずかしく思いました。

私は運送業界の仕事上「CO2排出の削減」「アイドリングストップ」等、協力できる事は多々あります。

新潟人として、当然の取り組みや協力を実行する姿勢が大切だと“ふうど”を読んで気付かされました。ありがとうございます。次回楽しみにしております。

新潟市 20代 男性

先人たちの苦労ははかり知れません

ふうどを拝見する度に新潟から発信されている文明の多さにびっくりします。エネルギーも石油から始まりソーラー発電までそうなのですね! 先人たちの苦労ははかり知れません。

もっと大切にムダなく活用しなければならないのに、その苦労を知らずに湯水の如く、使いたい放題。豊かさと贅沢は違うのですが、今回の震災で多くの人が何かを感じたのではないかでしょうか。

生きる為にはエネルギーは必須です。これからも、後人まで安心して使えるエネルギー発展を望みます。

燕市 50代 女性

から室町・江戸初期・中期のさまざまな時代の堂塔伽藍が杉木立に囲まれて静かに建つ。そのどれもが長い月日を風雨に洗われもなお、建造当時の輝きを失っていない。かえって浮き出た木目の枯れが、構造そのものの美を浮きあがらせる。時代の建築様式と寺固有の歴史を秘めて、四方を山で塞がれた独特の地形にある境内は、現代とまったく違う空気が籠もっている。この場にしかないチカラがある。

六百年を猶に超しただろう骨堂が、いい。なんの飾りもない小さいお堂だが、そこにあるだけで、多くを語る。時代の建築様式と寺固有の歴史を秘めて、四方を山で塞がれた独特の地形にある境内は、現代とまったく違う空気が籠もっている。この場にしかないチカラがある。



ここは徳川幕府のご朱印地

蓮華峰寺は八〇七(大同二)年、弘法大師の開基と伝えられる。鎌倉時代以来、西三川砂金山を経営する羽茂本間氏の保護を受け、江戸時代になると相川金銀山を開発した大久保長安と強い関係を持つ。境内の一角には長安の名が刻まれた小比叡神社の鳥居があり、それを裏付ける。

鎌倉時代から力を持っていた蓮華峰寺だが、徳川家の御靈屋の造営によって、九十石あまりのご朱印地として認められてから、大寺になっていく。こうして佐渡でいちばん大きな境内を持つ巨刹は、時代の変化を乗り越え、この六月新しい住職に世代が変わった。山門や本堂にかけられた幕や、道々にはためく幟は真新しく、古刹の佇まいに清新の気を添えていた。「紫陽花寺」としても名高い。



■中世の空気を放つ巨刹

小木から北へ山中に入ると、蓮華峰寺がある。擂り鉢のような地形の谷や峰に、鎌倉

佐渡文化の基層のひとつに、海運がある。小木港は古代から海上の道の拠点だった。古くは朝廷とつながり、江戸期は金銀の積出港として中央と結ばれ、江戸中期に西周り航路が開発されると、小木や宿根木の廻船業が西日本と蝦夷の物資交易で活躍、町は湊町として賑わった。その繁栄と他国との交流が、この地の文化を深めていく。小木港の近くに、本土では見た事もない、驚くほど大きくて謎めいたお寺がある。

伝える
場のチカラ

もうひとつ 佐渡に逢う

①弥生時代の新穗玉造遺跡がある吉日神社。広々として境内は神寂びている。神の使いとされる猿の彫刻をあちこちで発見。楽しい宝探しだった。(新穂)

②牡丹に彩られた長谷寺で、樹齢千年以上の3本の杉と出会う。佐渡に配流された能の創始者・世阿弥もこの寺を参詣した。500年以前、世阿弥が見えたものとあまり変わらない風景を坂の上から見た。(長谷寺 長谷)

③生糸時代の新穂玉造遺跡がある吉日神社。広々として境内は神寂びている。神の使いとされる猿の彫刻をあちこちで発見。楽しい宝探しだった。(新穂)

④八角堂(手前)と八祖堂。八祖堂は大き張り出した屋根をたくさん組物が支える中世式様式。18世紀前期(蓮華峰寺 小比叡)

⑤1348(正平3)年に書かれた落書きがある骨堂。長い年月の風雨で木材の角が丸くなっている。14世紀中期以前(蓮華峰寺 小比叡)

⑥東照大権現(徳川家康)と二代將軍徳川秀忠を祀る御靈屋。究極の豪華絢爛。彩色が少し残る。18世紀ごろ(蓮華峰寺 小比叡)

⑦境内の一角にある小比叡神社。本殿は三間社流造りこけら葺。見るからに古様。石造の鳥居は、相川金銀山を開発し発展させた大久保長安の寄進による。17世紀中期(蓮華峰寺 小比叡)